

来年度の連携基盤を活用したユーステスト(案)一覧(1/2)

※これらの意見については連携基盤WT構成員より聴取

ユーステスト(案)の概要	取組により期待される効果
<p>【提案1】 全国の定置網の水揚げデータを集め、それをアニメーションとして魚群の動きとして可視化し、来遊予測を行うシステムを構築する。</p>	<p>複数の定置網の漁獲水揚げ情報を連携してビッグデータを生成し、AI等の活用により回遊魚の来遊を予測することで、効率的・効果的な漁業経営を支援する。また、水揚げ予測を流通・加工分野にも共有することで需要に対する供給の計画的な確保にも繋がるのが期待される。</p>
<p>【提案2】 まぐろ延縄漁船団におけるマーケットインを考慮した位置情報、漁獲情報の共有を可能とし、漁獲物を高価値で販売可能な環境を提供する。</p>	<p>市場の取引情報や需要情報、ならびに、漁獲情報を船陸間で共有し、計画的な操業を行うことで安定的な漁獲物の供給や、漁獲物を高価格で水揚げすることを可能とする。これにより、漁業者の所得向上と資源の有効利用の両立を図る。また、流通・加工分野においては、円滑な物流の実現や、計画的なロット確保に繋がるのが期待される。</p>
<p>【提案3】 複数定置網等(鮭など)での環境情報等の収集・共有による、新たなビジネスモデルの創出への基盤を構築する。</p>	<p>定置網に設置したICTブイや魚群探知機から得られる環境情報や公的機関が持つ気象海洋情報等を連携させ、漁獲の予測を行うことにより、効率的・効果的な漁業経営を支援する。</p>

来年度の連携基盤を活用したユーステスト(案)一覧(2/2)

※これらの意見については連携基盤WT構成員より聴取

ユーステスト(案)の概要	取組により期待される効果
<p>【提案4】 全国の養殖事業者間のデータ連携により、給餌を最適化し、育成期間の短縮など、コストとリスクの削減を図る。</p>	<p>連携するデータは水温、溶存酸素などの環境に加えて、育成尾数、平均体重、給餌量、へい死数データを連携することにより、給餌を最適化し、育成期間の短縮を図る。これにより、養殖業を営む上でかかるコストやリスクを抑えることが可能となり、漁業者の所得向上や安定生産に繋がることが期待される。</p>
<p>【提案5】 試験研究機関の有するブイデータと民間企業の情報提供システムの連携による高精度情報提供システムを構築する。</p>	<p>既に実運用されている民間企業の海洋環境情報提供システムと、試験研究機関のブイデータとを連携させ、高精度な海洋環境の情報提供を可能とする。これにより、広範囲かつ精度の高い情報提供を可能とし、漁業経営の安定に繋がることが期待される。また民間企業が持つ海洋環境情報を公的機関のデータと連携させることにより、資源調査の充実に繋がることが期待される。</p>

※その他、公的利用のユーステストも別途検討中